

【宜野湾市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿

近年の急速な社会の変化や技術進歩にともない、暮らしや働き方が大きく変わってきている。子どもたちはこの予測できない変化の時代を生きていく必要がある。教師の指示に従うだけ、あるいは、大人の指示がなければ何もできない「指示待ち人間」ではなく、子どもたち自ら、課題を発見し、仲間と力を合わせて課題を解決していける人間形成を図ることが令和時代の学校教育に強く求められている。そのためには、教師はこれまでの一斉指導による知識や解決策を示すのではなく、1人1台端末を始めとする ICT 環境を活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実践することで「自立した学習者」の育成を目指す。

2. GIGA 第1期の総括

本市では令和2年度に全児童生徒と授業を行う教員用に1人1台端末を10,307台整備し、令和3年6月から利用を開始した。日常的に授業で使うことを推進した結果、令和6年度の全国学力状況調査の児童生徒質問紙の結果では小学校6年生、中学校3年生ともに「タブレットを毎日使う」と回答した割合は、小学校6年生で約2ポイント、中学校3年生で約4ポイント、全国平均を上回っていた。

一方で授業への利活用や端末の持ち帰りについては、学校間や学年間、学級間でまだ格差があり、その要因の一つとして教員の意識や ICT スキルの差が挙げられる。これらの課題を解決するために、ICT 支援員による教員の支援を引き続き行うとともに、1人1台端末を活用した授業事例の情報共有を行い、全ての学校・学年・学級で1人1台端末が活用できるよう、積極的に推進していく。

また、児童生徒が1人1台端末を日常的に活用することに伴い、情報モラル教育の充実も必要である。文部科学省の情報モラルに関する各種資料を活用して児童生徒が情報や内容を正しく理解し、情報の取捨選択や適切な対応ができるように指導を行う。

3. 1人1台端末の利活用方策

「1人1台端末の積極的活用」

現在、全小中学校各1名の教員を情報教育研究員として委嘱しており、ICT 機器を活用した授業研究・授業実践を行っている。これらの成果を市内小中学校の教員へ周知・共有し、1人1台端末を活用した授業力向上を図る。また、授業以外の場面においても、体や心の健康記録など様々な場面での活用も推進していく。

「個別最適・協働的な学びの充実」

児童生徒が自分のペースや習熟度に合わせて学習できるように、デジタルドリル教材や学習者用デジタル教科書の活用を進める。また、クラウドシステムの共同編集機能などを活用した他者との協働学習を通して、多様な他者の意見に触れながら、自分自身の考えについてまとめる力を育成する。

「学びの保障」

不登校や教室での学習が苦手な児童生徒、特別な支援を要する児童生徒など、それぞれの特性に応じて、ICT の活用を積極的に推進する。また、日本語が不慣れな外国籍の児童生徒には翻訳ソフトを活用した学習支援を行う。